

2023年9月4日

第75回「保健文化賞」受賞者の決定について

第一生命保険株式会社(社長:隅野 俊亮、以下「当社」)が主催する第75回「保健文化賞」の受賞団体・個人(以下「受賞者」)が別紙のとおり決定しました。

当社は創業以来、生命保険事業を通じた社会課題解決への貢献とともに、国民の健康、保健衛生の向上に努めてきました。1934年に「保生会」を設立して当時の国民病であった結核予防に取り組み、戦後間もない1950年に衛生環境が悪化する中、わが国の保健衛生向上のためにお役に立ちたいとの思いから、保健衛生の分野における立派な業績と長年にわたるご労苦に「感謝」と「敬意」を捧げるために本賞を創設しました。

創設当時は結核や栄養不足、その後は生活習慣病対策、高齢者・障がい者福祉、国際保健など、その時代におけるさまざまな課題に取り組まれた方々を顕彰してきました。

第75回となる本年度は、2023年2月1日から4月17日の期間に募集を行い、団体・個人合わせて45件のご応募をいただきました。この度、審査委員による選考のもと、団体10件、個人3名の受賞者が決定しました。これまでの受賞者総数(今回を含む)は、732団体、個人375名、合わせて1,107件にのぼります。

受賞者には、厚生労働大臣から表彰状、当社からは感謝状とともに賞金(団体 200万円、個人 100万円)、朝日新聞厚生文化事業団・NHK厚生文化事業団からは記念品が贈られます。

当社は、生命保険業を通じて「安心」と「健康」をお届けすることで、社会に貢献するとともに、本賞を通じて、今後も保健衛生の向上に寄与していきます。

以上

主催 第一生命保険株式会社
後援 厚生労働省
朝日新聞厚生文化事業団
NHK厚生文化事業団

第75回保健文化賞受賞者一覧 (敬称略)

(別紙)

受賞者名(団体・個人)	都道府県(※)	業績
湯沢町ファミリー健康プラン推進委員会	新潟県	健康づくり計画の策定・実践に「町民主体・町民参加型」として取り組み、20年にわたり住民主体の体制を継続することで、未成年飲酒・喫煙対策に成果を上げるなど、地域の健康づくりに貢献している。
特定非営利活動法人蜘蛛の糸	秋田県	秋田県内の自殺予防活動を行う民間団体の中核として、対面や電話等による相談の受付活動に長年にわたり取り組んでおり、経済・生活問題等の悩みを抱える地域住民の自殺予防をはじめとした、心の健康づくりの推進に貢献している。
特定非営利活動法人Commune with 助産師	福島県	福島県内の産科医療施設が減少する中で当該団体を設立して地域に根ざした助産師活動を展開し、東日本大震災発生時には即座に母子やその家族のために助産所を開放し、相談用電話を設置する等、妊産婦や乳幼児とその家族への支援に取り組み、地域に貢献している。
社会福祉法人弘和会	石川県	介護・障害者サービスの事業所機能を横断活用し、総合ケアをプロデュースすることにより、過疎化・超少子高齢化地域における独居老人・孤食問題の解消や、最期の看取りまで地域で生活できる街づくりに貢献している。
認定特定非営利活動法人 あいち骨髄バンクを支援する会	愛知県	長年にわたり、愛知県や市町村が実施する骨髄バンクドナー登録会における来場者へのドナー登録の呼びかけや普及啓発活動、血液疾患患者やその家族の支援活動、行政職員を対象とした研修への講師派遣等を精力的に行い、骨髄バンク事業に貢献している。
食アレスマイルネット	愛知県	食物アレルギー患者の苦しみや思いを絵本に託して作り上げ、それらを持って日本小児臨床アレルギー学会への訪問や、47都道府県等への絵本贈呈企画、読み聞かせ会企画等で全国を回り、16年にわたり、患者の心を支えることに貢献している。
NPO法人チャイルドヘルプライン MIEネットワーク	三重県	10年以上にわたり、さまざまな悩みや心配ごとを持つ子どもたちに対し、相談員が電話を通して思いに寄り添うことで、三重県のこどもの心の支えとなるとともに、自己肯定感を高めることに貢献している。
一般社団法人KISA2隊	京都府	地域のプライマリケアの枠組みを用いて、新型コロナウイルス感染症で自宅療養中の患者への訪問診療を全国に先駆けて行い、その取組をモデルケースとして全国各地へ普及させることで、多職種連携及び在宅医療の推進に貢献している。
特定非営利活動法人鳥取県自閉症協会 ペアレントメンター鳥取	鳥取県	研修を受けた先輩保護者が発達障害のある子どもを育てた経験を活かし、共感性の高い相談活動を行うとともに、ユーザー目線で子育て情報の紹介をすることで、仲間や社会とのつながりを支え、子育てコミュニティに貢献している。
特定非営利活動法人ステップバイステップ	熊本県	障害児と保護者が共に暮らし続けることができる地域を目指して障害児の移動支援事業や療育施設の設置・運営等の活動を続け、1つの自治体の枠に収まらず近隣市町の住民のニーズにも応え続けることで、障害児の居場所づくりや自宅から特別支援学校に通学できる体制整備に貢献している。
高岡 晃教	北海道	まもるんジャーやこども研究所に代表されるように独自のプログラムを創出し、こどもに幼児のうちから感染症や免疫の教育を行うことで、地域における保健衛生教育の推進に貢献している。
岡本 和美	奈良県	小児科医師、5人の子の母、教育委員長としての経験をもとに、25年余、児童虐待を広義に捉え、育児支援・思春期保健対策・女性の働き方・医師への教育等、広い範囲にわたり活動され児童虐待防止に貢献している。
花田 敬士	広島県	膀胱癌の危険因子に着目し、病診連携を生かして内視鏡を含む低侵襲の検査介入を行う膀胱癌早期診断プロジェクトを展開し、地域における膀胱癌の早期診断例の増加や5年生存率の改善等に貢献している。

※受賞時点の団体所在地・個人居住地